

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成30年1月29日(月)～平成30年2月4日(日)〔平成30年第5週〕の感染症発生状況

第5週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)インフルエンザ 2)感染性胃腸炎 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。  
 インフルエンザの定点当たり患者報告数は62.43人と前週(59.77人)から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。  
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.24人と前週(5.05人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。  
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.38人と前週(2.19人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

★インフルエンザウイルス  
インフルーくん

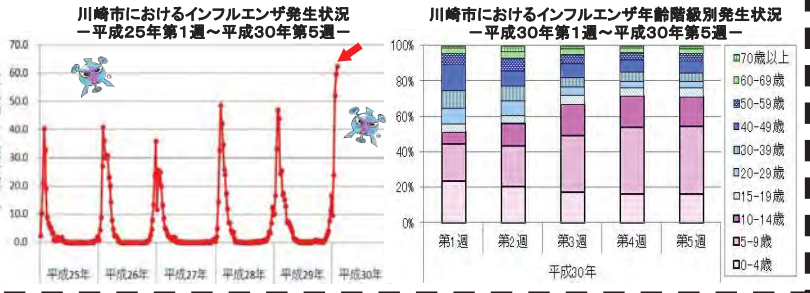
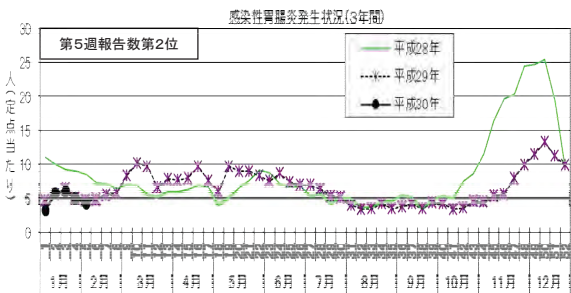
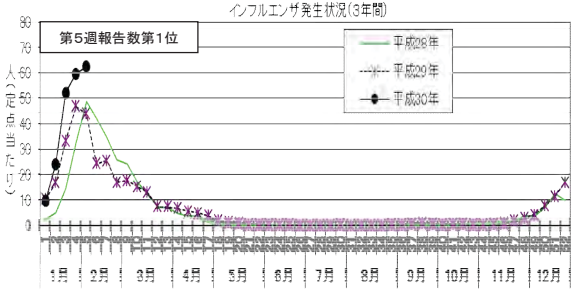


## インフルエンザ猛威続く！～過去最多の報告数を更新～

川崎市では、インフルエンザの平成30年第5週(1月29日～2月4日)の定点当たり報告数が62.43人となり、現在の調査方法となった平成11年以降、2週連続で過去最多の報告数を更新しました。年齢階級別では特に14歳以下の子どもの患者数が増えており、今シーズンは全国と同様、A型インフルエンザに加えて、B型インフルエンザの流行もみられています。

なお、国立感染症研究所の報告によると、B型インフルエンザの山形系統、ビクトリア系統ともにワクチン株と抗原性は類似しているとのこと。

引き続き、手洗いや咳エチケット等の予防対策を心がけましょう。



川崎市 KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター (問い合わせ先) 044-276-8250

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成30年2月5日(月)～平成30年2月11日(日)〔平成30年第6週〕の感染症発生状況

第6週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)インフルエンザ 2)感染性胃腸炎 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。  
 インフルエンザの定点当たり患者報告数は45.26人と前週(62.43人)から減少しましたが、例年より高いレベルで推移しています。  
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.32人と前週(4.24人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。  
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.54人と前週(2.38人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



## 知っていますか？～百日咳～

百日咳は、百日咳菌を原因とし、とまりにくい咳発作を特徴とする急性感染症です。かつては小児に特有の疾患でしたが、ワクチンが導入され、近年では小児に比べ成人での報告数が増加しました。成人では症状が典型的でないため、病院への受診や診断が遅れることもあり、ワクチン未接種の乳児への感染源となります。軽症でも菌の排出があるため、咳等の症状がみられる場合は早めに医療機関を受診しましょう。

### 百日咳とは？

感染経路：咳やくしゃみ等による飛沫・接触感染

潜伏期間：7～10日

#### 症状

かぜ症状で始まり、咳の回数が増え程度も激しくなるカタル期(1～2週間)の後、短く激しい咳が連続して起こり、続いて笛の音のような音が出る咳発作を繰り返す痙攣期(3～6週間)を経て回復します。  
 \*免疫が不十分な1歳以下(特に6か月未満)の乳児が感染すると、死に至る危険性があります。

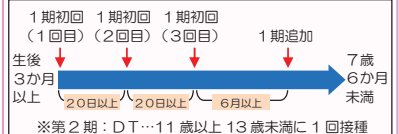
#### 治療方法

適切な抗菌薬での治療により、服用開始から5日後には菌はほぼ陰性となります。

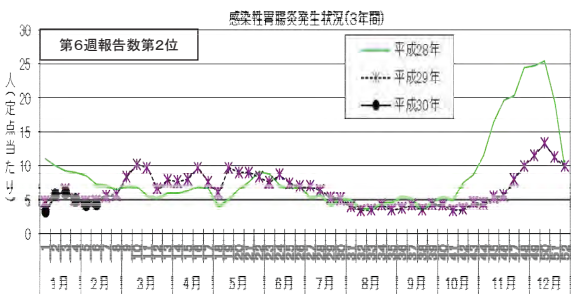
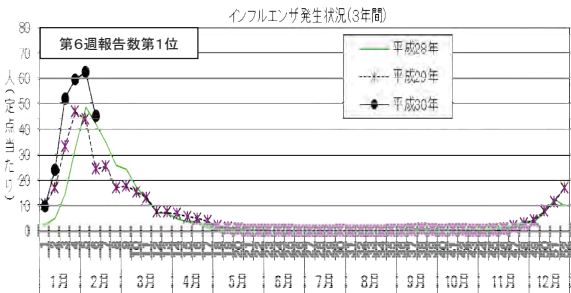
### 予防方法

#### ◆ワクチン接種

ジフテリア、百日せき、ポリオ、破傷風(第1期：DPT-I PV)の標準的な接種スケジュール



百日咳菌の感染力は強く、免疫のない家族内接触者の発病率は80%以上といわれています。感染を広げないために、咳エチケット(マスク着用等)が重要です。



川崎市 KAWASAKI CITY

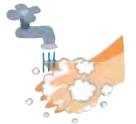
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター (問い合わせ先) 044-276-8250

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成30年2月12日(月)～平成30年2月18日(日)【平成30年第7週】の感染症発生状況

第7週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)インフルエンザ 2)感染性胃腸炎 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。インフルエンザの定点当たり患者報告数は24.36人と前週(45.26人)から減少し、例年並みのレベルで推移しています。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.08人と前週(4.32人)から減少し、例年より低いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は1.70人と前週(2.54人)から減少し、例年並みのレベルで推移しています。



## こんな病気にも気をつけて！～A型肝炎～

A型肝炎はA型肝炎ウイルスを原因とし、一過性の急性肝炎を主症状とする感染症です。我が国では、上下水道などの整備により患者数は激減したものの、現在も年間130～430件程度の報告があります。

過去5年間にわいては、全国の届出のうち男性が59.8%を占め、20歳代～60歳代と幅広い年齢層の患者(無症状病原体保有者含む)の報告がありました。

### A型肝炎とは？

**感染経路:** 患者糞便中のウイルスによって汚染された飲食物や人の手を介して感染する。また、性的接触により感染する場合もある。

**潜伏期間:** 2～7週間

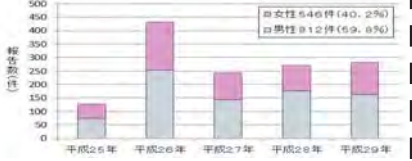
**症状:** 38℃以上の発熱、全身倦怠感などの症状に続いて、食欲不振・嘔吐などの消化器症状を呈し、その後、黄疸、肝腫大、濃褐色尿などを認める。1～2か月の経過後に回復するが、まれに、劇症化して死亡する例もある。

※成人では小児に比べ、症状の程度が強いことが多く、高齢者では重症化(劇症化、死亡)しやすい。

**治療:** 特異的な治療法はなく、対症療法が中心

**予防方法:** 手洗い等(ワクチン接種も可能)

全国におけるA型肝炎発生状況(平成25年～平成29年)



全国におけるA型肝炎年齢階級別発生状況(平成25年～平成29年)



◆近年、我が国ではA型肝炎の感染が少なくなり、A型肝炎ウイルスに対する抗体保有率が低下しているため、保育園等を含む施設内の集団発生や家族内感染への注意も必要です。



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター (問い合わせ先) 044-276-8250

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成30年2月19日(月)～平成30年2月25日(日)【平成30年第8週】の感染症発生状況

第8週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)インフルエンザ 2)感染性胃腸炎 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。インフルエンザの定点当たり患者報告数は18.46人と前週(24.36人)から減少し、例年並みのレベルで推移しています。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.19人と前週(4.08人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.49人と前週(1.70人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。



## 「子ども予防接種週間」3月1日(木)～3月7日(水)

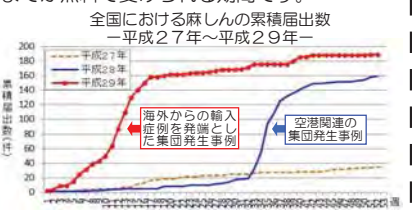
3月1日(木)～3月7日(水)は「子ども予防接種週間」です。この機会に母子健康手帳で予防接種歴を確認し、定期予防接種が済んでいないお子さんは、早めに必要な予防接種をすませ、病気を未然に防ぎましょう。

特に、麻しんはワクチンで予防できる疾患にもかかわらず全国では平成27年と比べて、平成28年、平成29年は麻しんの患者届出数が多くなっています。麻しん風しん混合ワクチン(MRワクチン)第2期接種対象者は、小学校入学前に必ず接種を受けましょう。※3月31日までが無料で受けられる期間です。

### 小児の定期予防接種のワクチン一覧

- ◆Hib 感染症(ヒブワクチン)
- ◆小児の肺炎球菌感染症(小児用肺炎球菌ワクチン)
- ◆B型肝炎
- ◆ジフテリア、百日せき、ポリオ、破傷風(第1期:DPT-IPV)(第2期:DT)
- ◆BCG(結核)
- ◆麻しん・風しん(MR)
- ◆水痘(水ぼうそう)
- ◆日本脳炎
- ◆ヒトパピローマウイルス感染症(HPVワクチン)

定期予防接種の詳細については、川崎市のホームページをご覧ください。



### 麻しん・風しん(MR) 定期予防接種の対象者

- 第1期 生後12月から生後24月に至るまでの間に受ける
- 第2期 小学校入学前の年度1年間(4月1日～翌年3月31日)



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター (問い合わせ先) 044-276-8250



# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成30年2月26日(月)～平成30年3月4日(日)〔平成30年第9週〕の感染症発生状況

第9週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)インフルエンザ 2)感染性胃腸炎 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。インフルエンザの定点当たり患者報告数は13.13人と前週(18.46人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.92人と前週(4.19人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.89人と前週(2.49人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

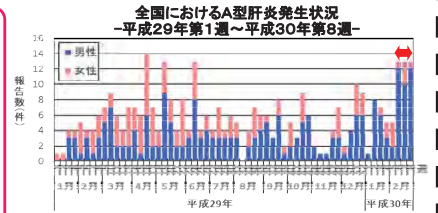


## 全国でA型肝炎の報告数が増加しています！

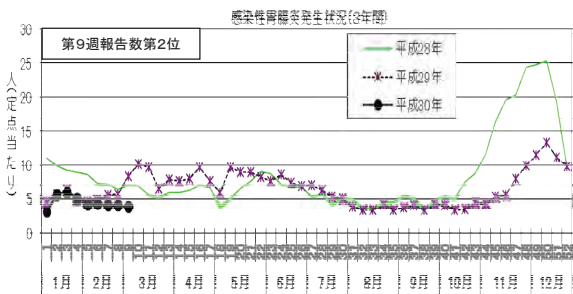
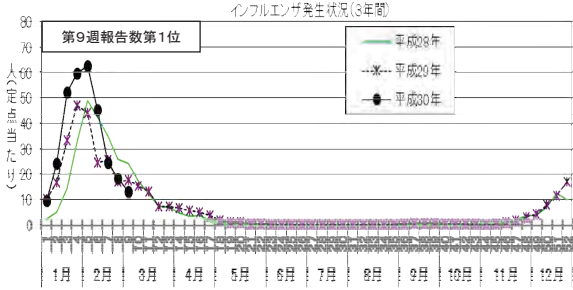
平成30年2月以降、全国においてA型肝炎の報告が増加しており、第6週(平成30年2月5日～2月11日)から第8週(平成30年2月26日～3月4日)は3週間連続で週に10件を超える報告がみられ、計39件に上りました。男女別では、男性の割合が多くなっています。A型肝炎は、一過性の急性肝炎で、成人では小児に比べ、症状の程度が強いことが多く、高齢者では重症化しやすいといわれています。

### A型肝炎とは？

- 感染経路  
糞口感染  
※患者糞便中のウイルスによって汚染された飲食物や人の手を介して感染します。また、性的接触により感染する場合があります。
- 潜伏期間  
2～7週間(平均4週間)
- 主な症状  
発熱、全身倦怠感、食欲不振、黄疸、肝腫大、濃褐色尿など
- 治療法  
特異的な治療方法はなく、対症療法が中心



**予防接種について**  
A型肝炎流行国への渡航前には予防接種が勧められています。通常、2～4週間の間隔で2回接種し、さらに初回接種後24週を経過した後に追加接種を行います。また、海外渡航者以外にも魚介類を扱う調理従事者、医療従事者などに対する感染予防にも有効と考えられています。



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター(問い合わせ先) 044-276-8250

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成30年3月5日(月)～平成30年3月11日(日)〔平成30年第10週〕の感染症発生状況

第10週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)インフルエンザ 2)感染性胃腸炎 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。インフルエンザの定点当たり患者報告数は7.44人と前週(13.13人)から減少し、例年並みのレベルで推移しています。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.11人と前週(3.92人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.32人と前週(2.89人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



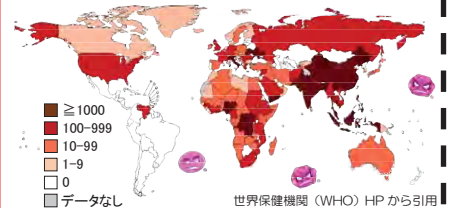
## 麻疹(はしか)の感染に注意しましょう！

麻疹は、麻疹ウイルスによって引き起こされる急性発疹性の全身感染症です。非常に感染力が強く、麻疹に対して免疫のない人が感染すると、ほぼ100%発症します。今月に入ってから、国内では海外からの帰国者による麻疹発症事例が発生しています。これから春休みを利用して海外に行かれる方も多いと思いますが、特にアジアをはじめとする流行地域を訪れる際には、事前にワクチン接種を済ませるなどの対策が必要です。

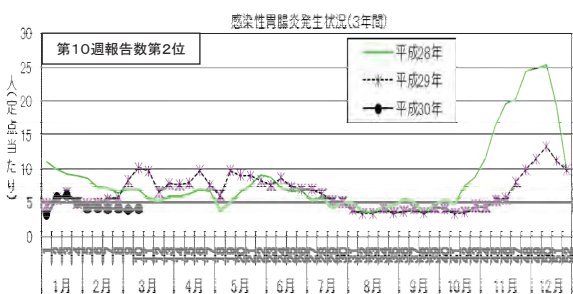
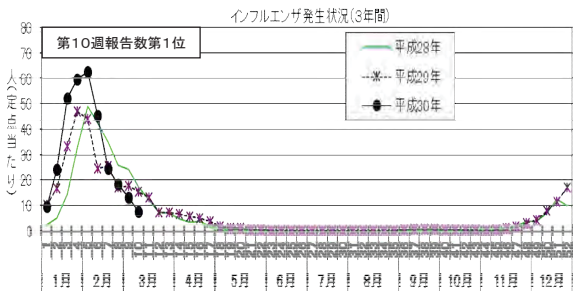
### 麻疹(はしか)とは？

- 感染経路  
空気感染、飛沫感染、接触感染
- 潜伏期間  
7～18日(最長21日程度)
- 主な症状  
発熱、結膜充血、咳、鼻水、発疹など(風邪様症状で始まり、38℃程度の発熱が2～3日続いた後やや降下し、再び39℃以上の高熱と共に発疹が出現します。)
- 予防方法  
ワクチン接種

世界における麻疹の報告数  
-平成29年7月～平成29年12月-



流行地から帰国後2週間程度は高熱や発疹などの症状に注意し、麻疹が疑われる場合は、必ず事前に電話連絡してから医療機関を受診しましょう。



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター(問い合わせ先) 044-276-8250

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成30年3月12日(月)～平成30年3月18日(日)〔平成30年第11週〕の感染症発生状況

第11週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)インフルエンザ 2)感染性胃腸炎 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。インフルエンザの定点当たり患者報告数は5.11人と前週(7.44人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.00人と前週(4.11人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.70人と前週(2.32人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

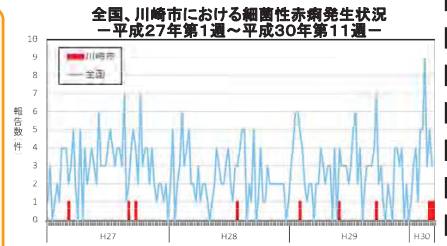


## 知っていますか？～細菌性赤痢～

細菌性赤痢は、かつては国内で10万人を超える報告がありましたが、その後激減し、現在は全国で年間150件程度の報告となっています。川崎市市内での報告は年間1～3件程度で推移していますが、今年は第11週(平成30年3月12日～3月18日)までに、既に3件の報告がありました。東南アジアなど海外での感染による事例が大半を占めるため、これから春休みを利用して海外に行かれる場合は、食べ物や水などには十分御注意ください。

### 細菌性赤痢とは？

- 病原体  
赤痢菌
- 感染経路  
糞口感染  
(患者糞便中の赤痢菌によって汚染された飲食物や人の手を介して感染します。)
- 主な症状  
1～3日の潜伏期間の後、全身の倦怠感、悪寒を伴う急激な発熱、水様性下痢などを呈する。  
(軟便や軽度の発熱で経過する軽症例が多いですが、重症例では、しびり腹\*や膿粘血便を伴うことがあります。)  
\*疼痛を伴い便意をもよおすが、少量の排便のみですぐにまた便意が生じる状態



### 海外では食べ物・水・水にご注意を！

- ◆生水は避け、ボトル入りの水を飲むようにしましょう。また、氷も生水から作られている可能性があるので注意しましょう。
- ◆十分に火の通った物を食べるようにしましょう。



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター (問い合わせ先) 044-276-8250

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成30年3月19日(月)～平成30年3月25日(日)〔平成30年第12週〕の感染症発生状況

第12週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3)インフルエンザでした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.86人と前週(4.00人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.46人と前週(2.70人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。インフルエンザの定点当たり患者報告数は2.18人と前週(5.11人)から減少し、例年並みのレベルで推移しています。



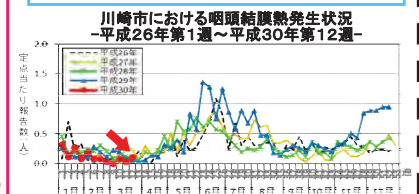
## 知っていますか？～感染症の感染経路～

感染症の原因となるウイルスや細菌は、飛沫感染や接触感染など、様々な感染経路で体内に入ります。例えば、接触感染を主とする咽頭結膜熱やA群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、例年、春から初夏にかけて報告数が増加しますが、接触の機会が多い学校や保育園などでは集団感染事例が発生することもあります。感染を予防するためには、手洗いなどの対策を徹底し、感染経路を断つことが重要です。

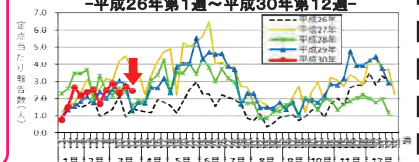
### 主な感染経路

- 1 飛沫感染  
口から飛び出た病原体が含まれた小さな水滴を近くにいる人が浴びて吸い込むことで感染  
主な感染症：インフルエンザなど
- 2 空気感染(飛沫核感染)  
口から飛び出した小さな飛沫が乾燥し、その芯となっている病原体が感染性を保ったまま空気の流れによって拡散し感染  
主な感染症：麻疹、結核、水痘など
- 3 接触感染  
感染源である人に触れる又は汚染された物を介して感染  
主な感染症：咽頭結膜熱、手足口病、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎など
- 4 経口感染(糞口感染)  
汚染された食物や手を介して口に入った物などから感染  
主な感染症：感染性胃腸炎など

### 春～初夏に流行する主な感染症の発生状況



### 川崎市におけるA群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター (問い合わせ先) 044-276-8250



# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成30年3月26日(月)～平成30年4月1日(日)〔平成30年第13週〕の感染症発生状況

第13週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3)流行性角結膜炎でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.22人と前週(3.86人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.32人と前週(2.46人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は2.00人と前週(1.11人)から増加し、例年より高いレベルで推移しています。

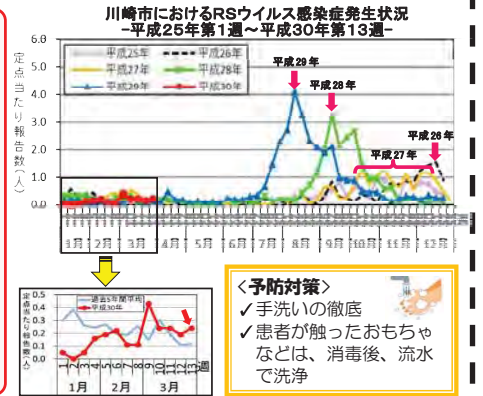


## 今後の動向に注意しましょう！～RSウイルス感染症～

RSウイルス感染症は、乳幼児を中心に秋から冬にかけて流行がみられる疾患です。ここ数年、流行のピークが徐々に早まっており、昨年は夏季に大きな流行がみられました。また、以前は春先の報告はほとんどありませんでしたが、今年は第13週(平成30年3月26日～4月1日)の定点当たり報告数が0.24人と、春先にもかかわらず例年より高いレベルで推移しています。特に小さいお子さんがいるご家庭では今後の流行状況に注意しましょう。

### RSウイルス感染症とは？

- 【感染経路】 咳や鼻水などによる飛沫・接触感染
- 【潜伏期間】 2～8日間(典型的には4～6日間)
- 【症状】 発熱・咳・鼻水などの症状が数日続き治癒しますが、初感染した乳児の約30%は咳がひどくなり、喘鳴や呼吸困難などの症状が出て、細気管支炎や肺炎へと進展することがあります。  
※低出生体重児や心臓や肺に基礎疾患などがある場合には、重症化のリスクが高くなります。
- 【治療】 特異的な治療方法はなく対症療法が中心



川崎市 KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター (問い合わせ先) 044-276-8250

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成30年4月2日(月)～平成30年4月8日(日)〔平成30年第14週〕の感染症発生状況

第14週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)流行性角結膜炎 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.68人と前週(4.22人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は2.89人と前週(2.00人)から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.70人と前週(2.32人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。



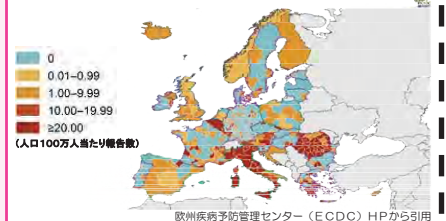
## ワクチン接種はお早めに！～麻疹～

麻疹は、麻疹ウイルスを原因とする急性の熱性発疹性疾患です。現在、東南アジアやヨーロッパをはじめとする様々な地域で流行がみられており、国内でも、輸入例を発端とした流行が沖縄県で発生しています。予防にはワクチンが有効ですが、効果が出るまでに接種後2週間程度かかるため、定期予防接種の対象者やゴールデンウィークに流行地に渡航される方は、早めの接種をおすすめします。

### 麻疹とは？

- 感染経路 空気感染、飛沫感染、接触感染
- 潜伏期間 7～18日(最長21日程度)
- 主な症状 発熱、結膜充血、咳、鼻水、発疹など(風邪様症状で始まり、38℃程度の発熱が2～3日続いた後やや降下し、再び39℃以上の高熱と共に発疹が出現します。)
- 合併症 肺炎、中耳炎、脳炎\*、亜急性硬化性全脳炎\*\* (\*1000人に1人程度、\*\*10万人に1人程度)

ヨーロッパにおける麻疹の発生状況(2017年)



### 麻疹・風しん(MR)定期予防接種の対象者

- 【第1期】 生後12月から生後24月に至るまでの間にある者
- 【第2期】 小学校入学前の年度1年間 (4月1日～翌年3月31日)

川崎市 KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター (問い合わせ先) 044-276-8250